

啓伸塾便り

2月 (如月)
February

基礎学力を重視する学習塾
啓伸塾
ただ今、冬の新入塾生募集中

中三受験生に送る言葉

ケアレスミススを恐れるのではなく、それ以上に実力をつけておけばいい。

ケアレスミススを恐れて気持ちが悪くなるケアティブにならなければならぬケアレスミススは増えます。

それどころか、ケアレスミスに対する恐怖のせいで、本来の実力を発揮できなくなる可能性があります。

ケアレスミススは、減らそうと思ってもなかなか減らせるものはありませんし、誰だって一定の割合で起きます。

その意味では条件はみんな同じですから、ケアレスミスをしたっていいんです。

もし、ケアレスミススを恐れて萎縮してしまうなら、ケアレスミス分をカバーしてあまりある実力を付けたいと考える方がいいのです。

そう考えればケアレスミススの恐怖が和らいで、結果的にケアレスミスに打ち勝とう！

ケアレスミスに打ち勝とう！

勉強が出来る子と、そうでない子の違い

塾へ行かなくても成績が超アップ！ 自宅学習の強化書 教育YouTuber 葉一 著より

勉強が出来ないのは、それはそのやり方に問題があります。中学校生活で大きな役割を占めるものは部活と勉強です。もちろん部活も努力すれば結果が出るけれども、身長が低ければバスケットやバレーでは人より苦勞するだろうし、才能の差を感じたり、カベにぶち当たったりする場面も多いでしょう。

しかし、勉強なら、べつに特別な才能なんかなくても、今よりもテストでいい点を取ったり、成績を上げたりすることは確実に出来ます。しかもそれは、中学卒業後の人生にまで関わる、ものすごく大事な成功体験になります。

そこで身につけたいのが、家で勉強する「自宅学習力」です。この力は子どもたちの学力に大きく関わってきます。家で勉強が出来ない子は、100パーセント、テストで点数の取れない子です。

自宅学習とは、どのようなことをいうのでしょうか。学校の課題になっているノート何ページという「自主勉」ではありません。学校や塾で習ったことを繰り返しやってみるようになること、自分一人で出来ることを増やすことです。よく、「わからないことがあったら、質問して、わかるようにすること」と言いますが、わかるようになったら、今度は自分一人でやってみないと、出来るようになりません。これをするのが自宅学習です。

そのやろうとしている問題は、その解き方をもうすでに習っています。解き方は、頭の中にあるはず。わからないと思いきやすぐあきらめず、いままで習ったことを思い出し、もっと考えてみる。それでも、どうしてもわからなかったら、その問題のどこまではわかって、どこからがわからないかを、しっかりと考え、それから自分より出来る友達や先生に、質問することです。

問題文をしっかりと読まずに、すぐあきらめてしまう子がありますが、そのような子ほど、もっと我慢して考えることが必要です。

考えるときは、ただ問題文を見ているのではなく、例えば数学なら数字を書き出してみたり、図にしたりすることです。とにかく「書く」「描く」ことが大切です。このようにすることは、その問題の理解を促します。これを「シタバタする」といいます。

テストで、点数を取る子の問題用紙には、いろんなことが書き込んであります。そうでない子の問題用紙は何も書き込んでないので、キレイです。

このようにできる子は、いろいろ書き込み、考えています。諦めるのが悔しいので、とことん考えます。そうでない子はあまり考えず、シタバタせず、すぐに人の助けを求めます。このように、成績を上げるには、人に頼らず、自分で考え、シタバタしてみることが必要です。その姿勢は自宅学習で行うことが大切です。

自宅学習をすることによって、勉強に対して自分から取り組んでいく主体的な姿勢が自然と身につきます。この姿勢は、中学卒業後、社会人になったら必ず必要な力になります。

「もっと勉強しておけばよかった！」と後悔する大人はいますが、「勉強なんてしなければよかった」という大人はいません。

2月の予定

中3入試対策指導 2月1日・8日・15日・22日(土)(13時30分~17時)
11日(火) 建国記念日・24日(月) 天皇誕生日振替休日は、通常通りの授業を行います。
中学1年・2年のみなさんは、2月1・2日(土・日) 学年末テスト対策を行います。また、小学生のみなさんも含め保護者懇談のご案内と新年度の確認の文書をお渡しします。よろしくお願いたします。

英語はなぜ苦手科目になりがちなのか？

成績が伸びる子の勉強術 花まる学習会 高濱正伸 著
英語は「量」の学科です。どれだけ読み、覚え、口にしたら、の量が多い人ができる科目です。努力すればするほどむくむくされると言える裏切らない科目です。

英語は好きなんだけど、苦手という人がいます。これは、実は積み重ねた部分が足りないからです。

たとえば、英会話を小さいころからやってきて、英語には慣れ親しんでいるという子がいたとします。英語はとても好きですから、中学校に入っても得意科目になるはずでした。

しかし、得意科目にならないという子が、実は結構いるのです。それはなぜかとい、書くという英語が始まるからです。単語のスペルを一つも間違えなく覚えるためには、何度も書くという努力をしなければなりません。これは日本語が読めても漢字が書けるわけではないのと同じです。

ですから、本当に得意になるためには、好きだけでなく、書けるようになるための積み重ねができるかどうかということも重要なのです。

英語は、小さいころ英会話などの幼児英語から入っていき、好きになっていき、努力を重ねて得意科目になる科目です。積み重ねることを身につければ、中学校の定期テストなどで満点を取ることも全然難しいことではありません。

英語は、早めに取り組んでいるに越したことはありませんが、中学校から始めても、十分間に合つと断言できます。